

2018年1月期第3四半期
決算説明資料

株式会社SKIYAKI

2017年12月13日

証券コード：3995

1

第3四半期累計売上高17.6億円、営業利益1.6億円

前年同期比で、売上高+47.0%、営業利益+130.0%と、ともに大幅に増加しました。当四半期末時点で、前年通期を上回る状況であり、通期売上予想22.4億円の達成に向け、着実に進捗しています。

2

FC・ECサービスともに大きく成長

前年同期比の累計売上高が、FCサービス（※1）+46.8%、ECサービス（※2）+42.5%と、主要サービスがともに大きく成長しました。FCサービスのストック型収入の増加により収益基盤がより強固になり、ECサービスの販売手数料収入も好調に推移しております。

3

SKIYAKI EXTRA登録会員数の堅調な伸び

当四半期末時点で、SKIYAKI EXTRAの総登録会員は131万人（有料会員数57万人・無料会員数74万人）となり、前年同期比で+53%の、45万人（有料会員数13万人・無料会員数32万人）の増加となりました。

4

営業利益率の向上・収益体制強化

業務の自動化・効率化の推進に伴う販管費の抑制により、営業利益率が前年同期比で+3.4%と向上しました。また、売上高販管費率（累計）は、27.3%と、前年同期比で4.8%改善し、安定的に収益を計上できる体制がより強化されています。

※1 FCサービス：アーティストや声優、アニメ、2.5次元ミュージカル等のファンクラブサービスの略称

※2 ECサービス：アーティストグッズ、CD、DVD等の通信販売サービスの略称



2018年1月期第3四半期
ハイライト

6,000万人超のT会員に向けた、ファンサービス「Tファン」の共同運営を2017年10月より本格的に開始！



システム提供



Culture Entertainment
カルチャ・エンタテインメント
株式会社



T-FAN | ファンサイト



DCxTファン

Tカード（DCデザイン）が手に入る！限定グッズ販売、サイトオープン記念プレゼントも！



LOVE Classic Cars x Tファン

旧車ファンのためのファンサイト「LOVE Classic Cars x Tファン」。登録者限定のTカードほか、様々な特典をご用意しています。



Rail Fan Club x Tファン

電子鉄道誌/バックナンバー読み放題・限定Tカードやグッズなど、鉄道を楽しむ皆様にお楽しみいただけるファンサービスです。



名探偵コナン x Tファン



PLAY TITAN



STAGE x T-FAN

「好き」に出会えるファンサービス「Tファン」は、ライフスタイルの提案や会員基盤に強みを持つCCCグループで、映画・音楽・出版の企画・製作に強みを持つC・Eと、音楽アーティストや声優、俳優などのファンクラブ・ファンサイトの制作・運営に強みを持つSKIYAKIの共同運営としてスタートしました。C・EとSKIYAKIのそれぞれの強みを活かし、Tカードをご利用のT会員の皆さまへ新たな楽しみ方を提案してまいります。

2501

SKIYAKI VR

360°リアルタイム VR LIVE配信

VR配信事業の展開に向けた業務提携

システム開発を完了し、当期中にサービス本格開始予定！



RIZeST ライゼスト・ファン

eスポーツエンターテインメント事業を展開するRIZeST社と業務提携

世界での競技人口1億人ともいわれるeスポーツのファンに向けたサービスを展開！

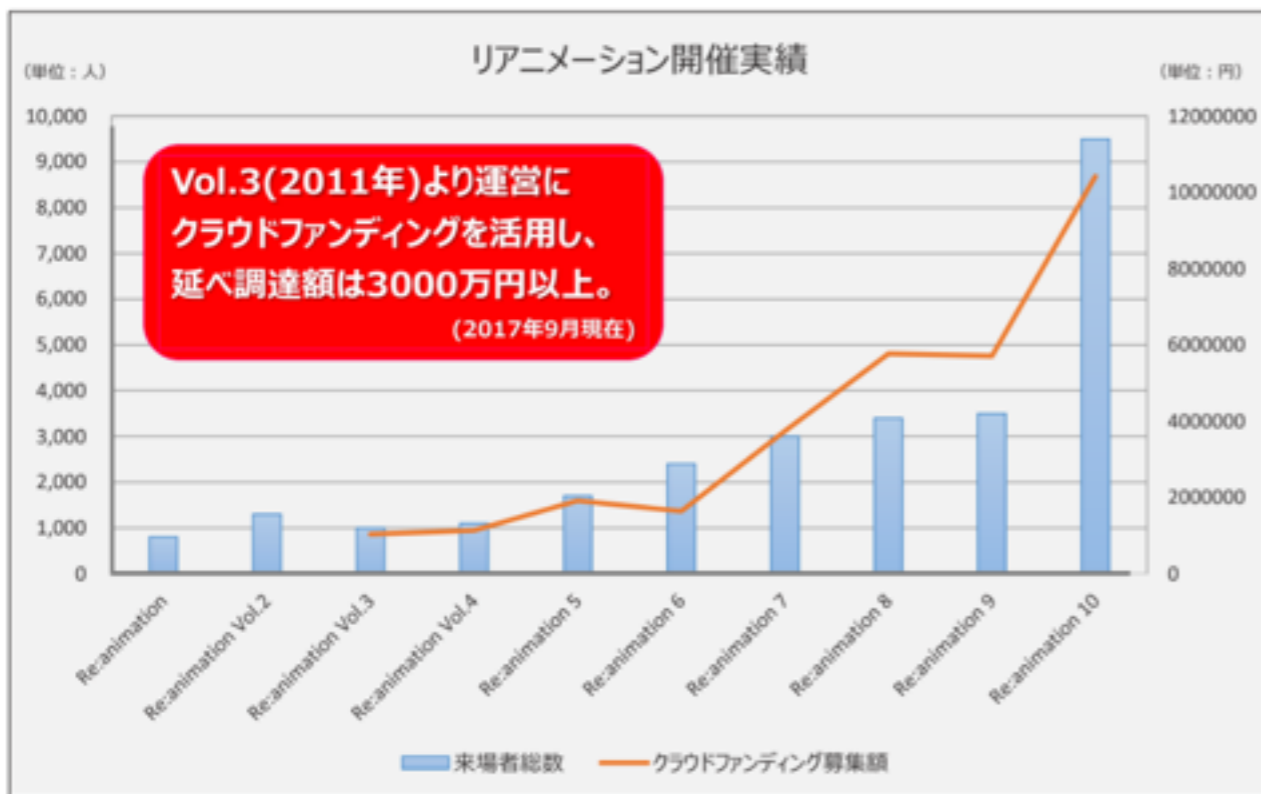


子会社の取得：株式会社リアニメーション

日本最大級のアニメ×クラブ超大型音楽フェス
「Re:animation」を運営する企業を連結子会社化

SKIYAKI

58.3%の株式を取得



Re:animation10
2017年7月1日、2日
潮風公園 特設会場にて開催

クラウドファンディングで
1,042万円調達！

2DAYS 9,500人動員！



HORIPRO
ホリプロオフィシャルグッズショップ



paypal、alipay、銀聯カードでの
EC海外決済対応をホリプロオフィシャル
グッズショップにて開始。



オフィシャルサイト内に、独自の
クラウドファンディング機能を実装。
リアニメーションにてプロジェクト開始。



既存運営のモバイルファンサイトに加え、
ゴールデンボンバーオフィシャルファンクラブ
「マルキン」をリリース。



3月のオンラインストア、6月の年会費ファン
クラブに続き、ゆずの月額モバイルファン
サイト「ゆずモバ!」をリリース。

◎ SKIYAKI GOODS



アニメ「信長の忍び」の
公式グッズを引き続き販売中

◎ SKIYAKI TICKET



販売済みチケット数：3万枚突破
流通額累計：1億4,800万円超

※2017年10月末現在

GTRAVEL



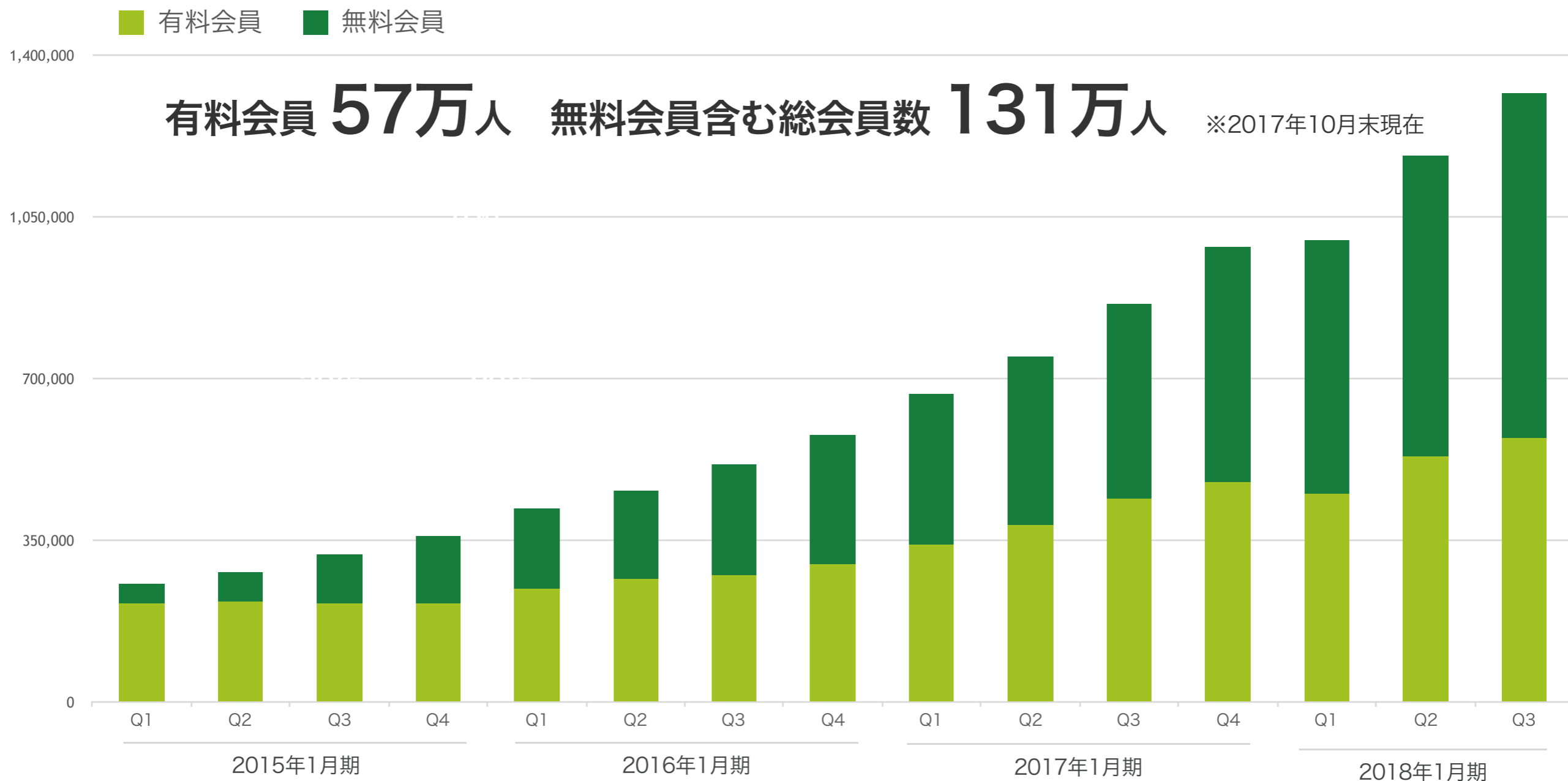
VAMPS LIVE 2017 BEAST PARTY
オフィシャル宿泊+航空券プランの販売

◎ SKIYAKI OFFLINE



君沢ユウキ、松本梨香、其原有沙、Machico
など、ファンクラブイベントを続々開催

会員数月次推移



前年同期比で、総会員数**45万人**増
 有料会員 **13万人**増 無料会員 **32万人**増



2018年1月期第3四半期
業績ハイライト

売上・利益ともに好調に推移し、前年同期比で大きく成長。

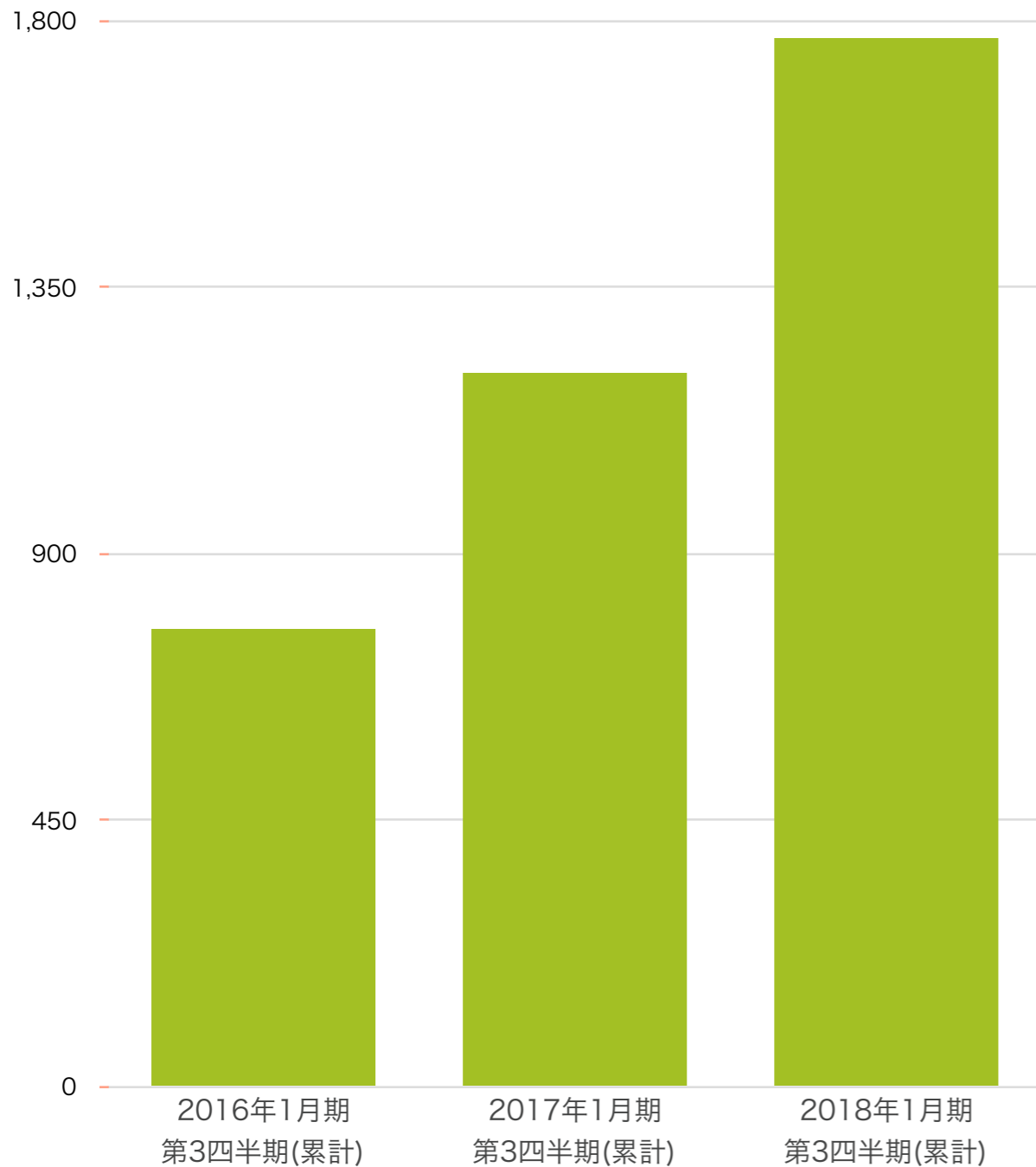
単位：百万円	2017年1月期 第3四半期（累計）	2018年1月期 第3四半期（累計）	前年同期比
売上高	1,203	1,768	+47.0%
売上総利益	459	650	+41.5%
営業利益	72	167	+130.0%
経常利益	73	154	+110.9%
四半期純利益	64	126	+94.6%

(注) 本業績ハイライトに記載している2016年1月期第3四半期(累計)及び2017年1月期第3四半期(累計)の数値については、上場前であり四半期連結財務諸表を作成しておりませんが、参考数値として前々年同期または前年同期の実績を記載しております。

前年同期比で、売上高+47.0%、営業利益+130.0%と、ともに大幅に増加。

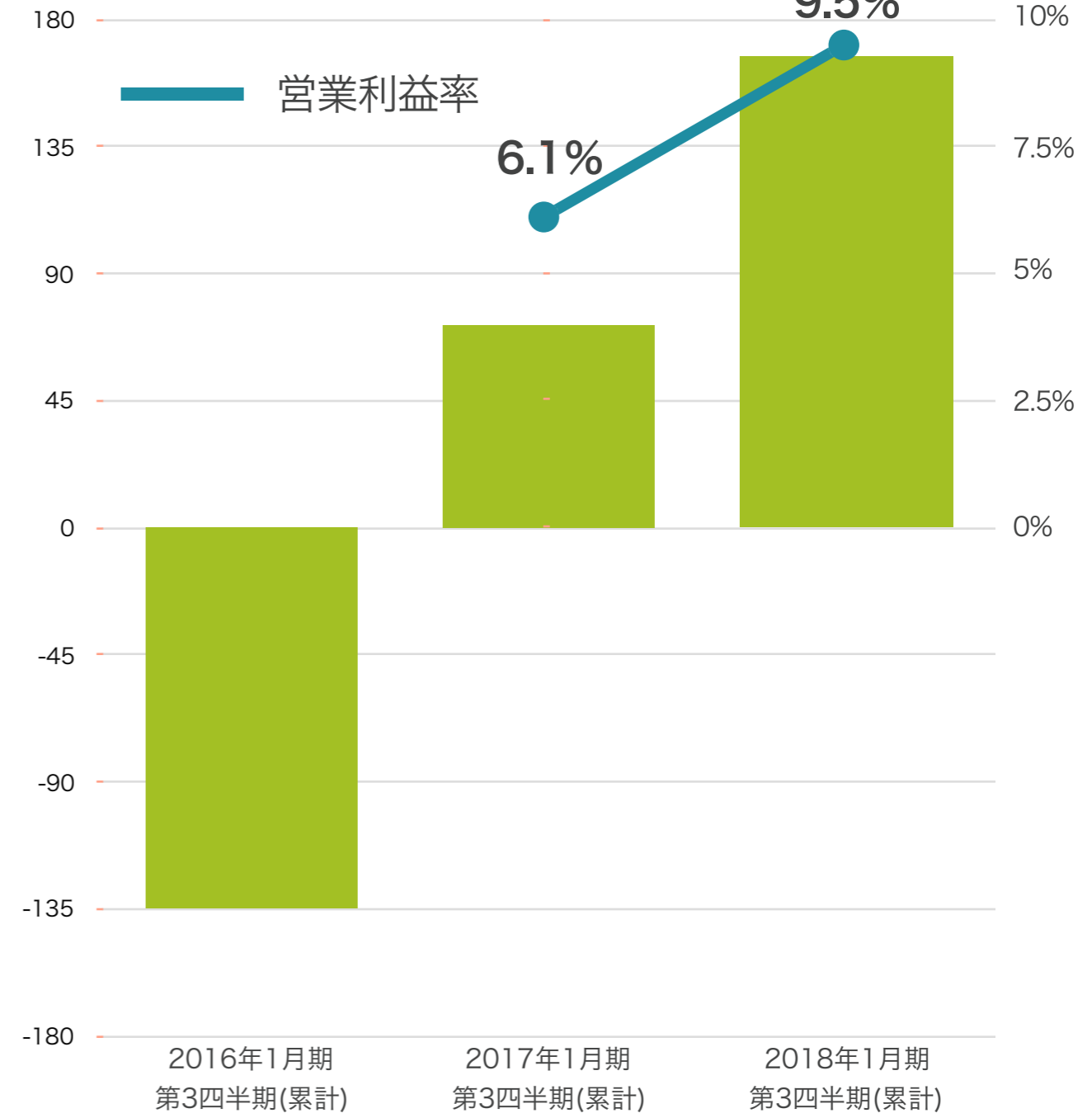
売上高推移

単位：百万円

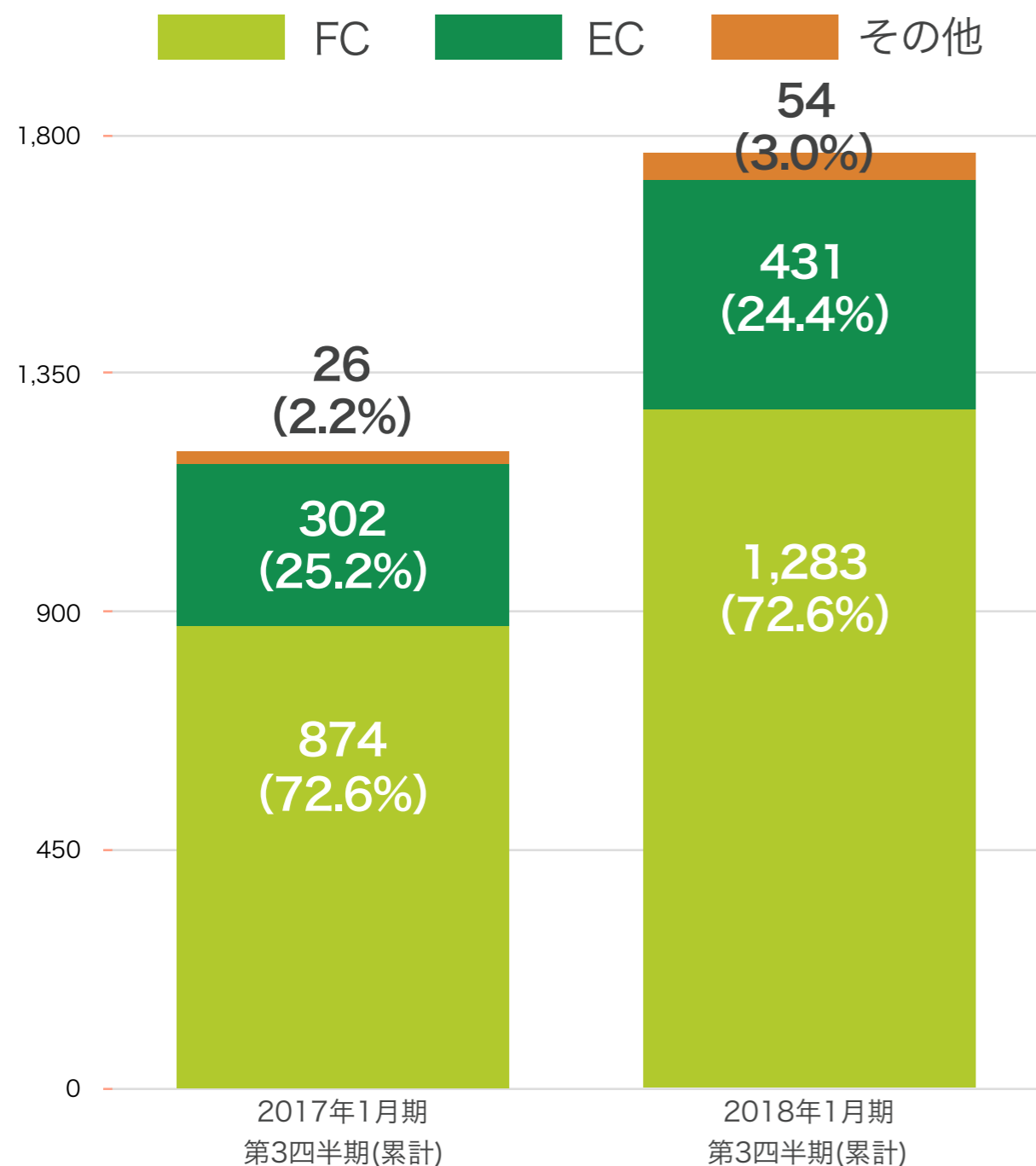


営業利益推移

単位：百万円



FCサービスのストック型収入の増加により収益基盤がより強固になり、ECサービスの販売手数料収入も好調に推移。



FCサービス売上累計12.8億円
(前年同期比+46.8%)

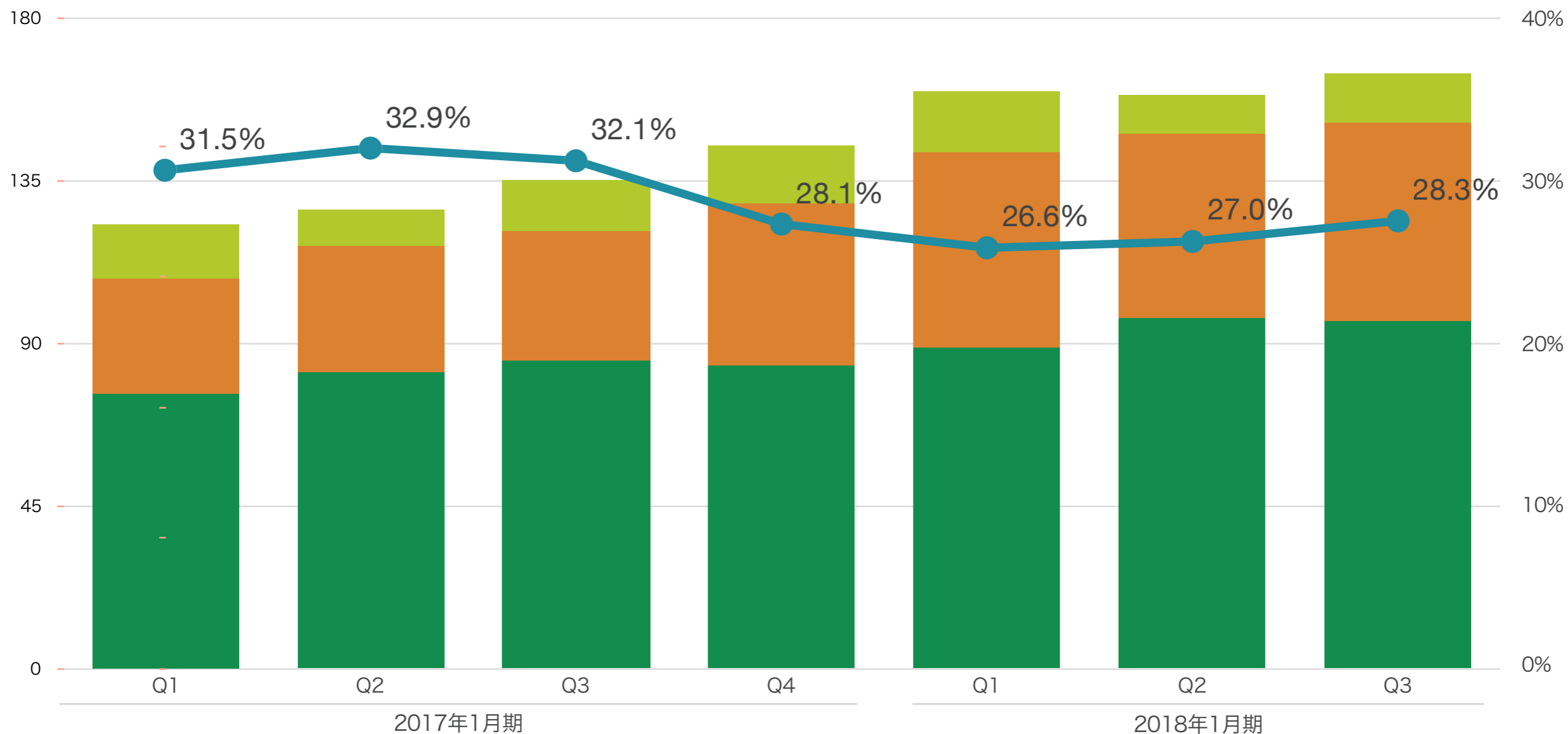
EC売上累計4.3億円
(前年同期比+42.5%)

サービス別売上高比率は
ほぼ変わらず推移

業務効率化により人件費は微増。売上増加に伴い変動費である回収手数料が増加。その他固定費の発生も抑制し、売上高販管費率は30%未満を維持。

■ 人件費
 ■ 回収手数料
 ■ その他販管費
 —●— 売上高販管費率

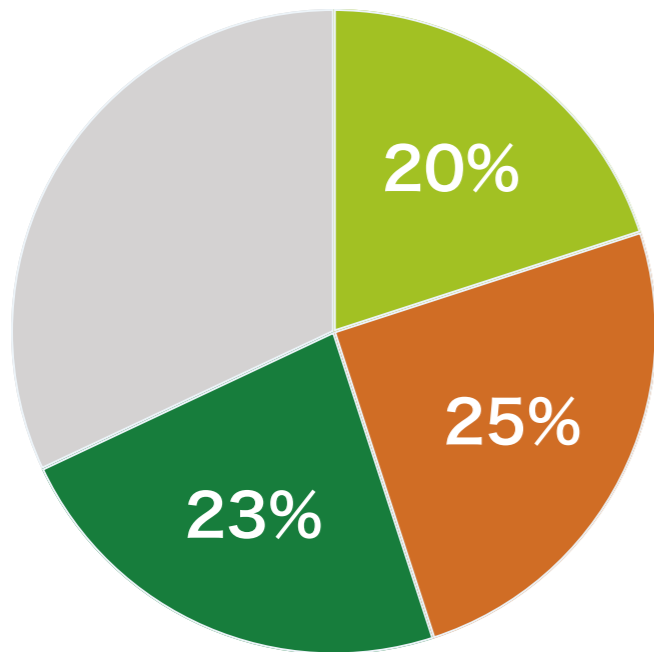
単位：百万円



通期業績予想に対する進捗率

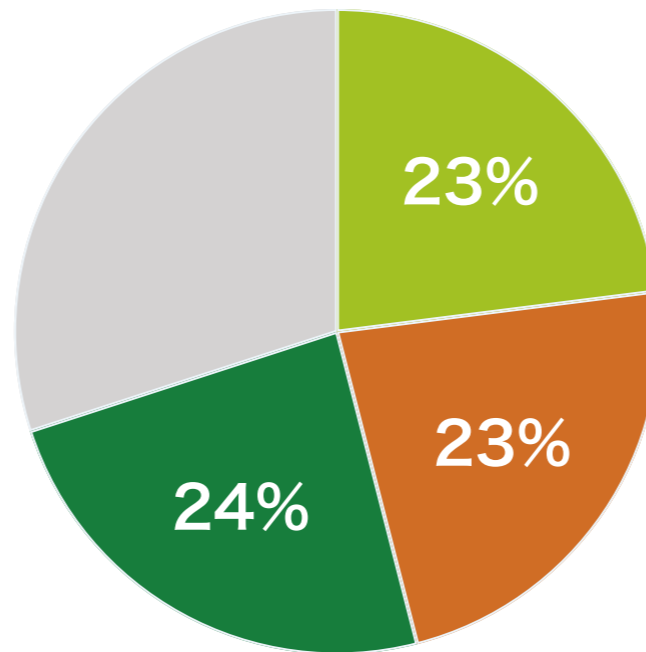
当四半期末時点で、通期売上予想22.4億円の78%の売上を計上しており、通期予算達成に向け、着実に進捗。

2016年1月期実績：11.3億円
Q3累計：7.7億円（68%）



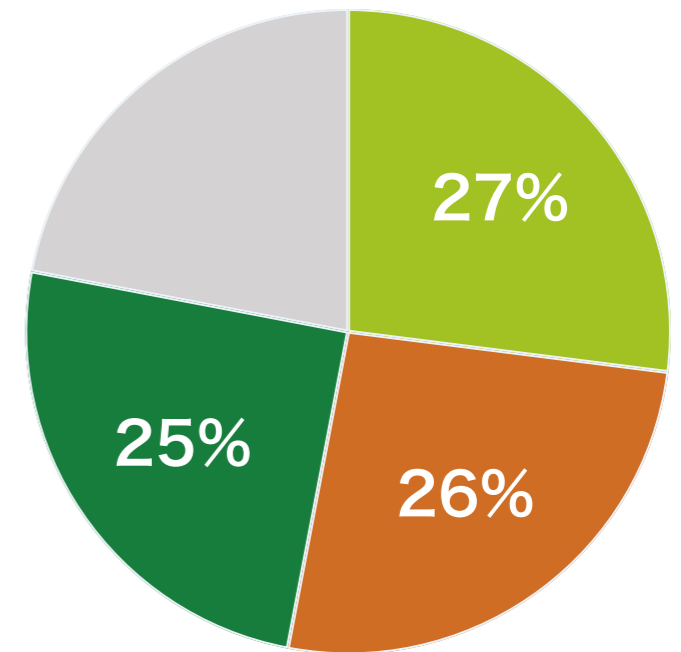
● Q1 ● Q2 ● Q3 ● Q4

2017年1月期実績：17.2億円
Q3累計：12.0億円（70%）



● Q1 ● Q2 ● Q3 ● Q4

2018年1月期見込：22.4億円
Q3累計：17.6億円（78%）



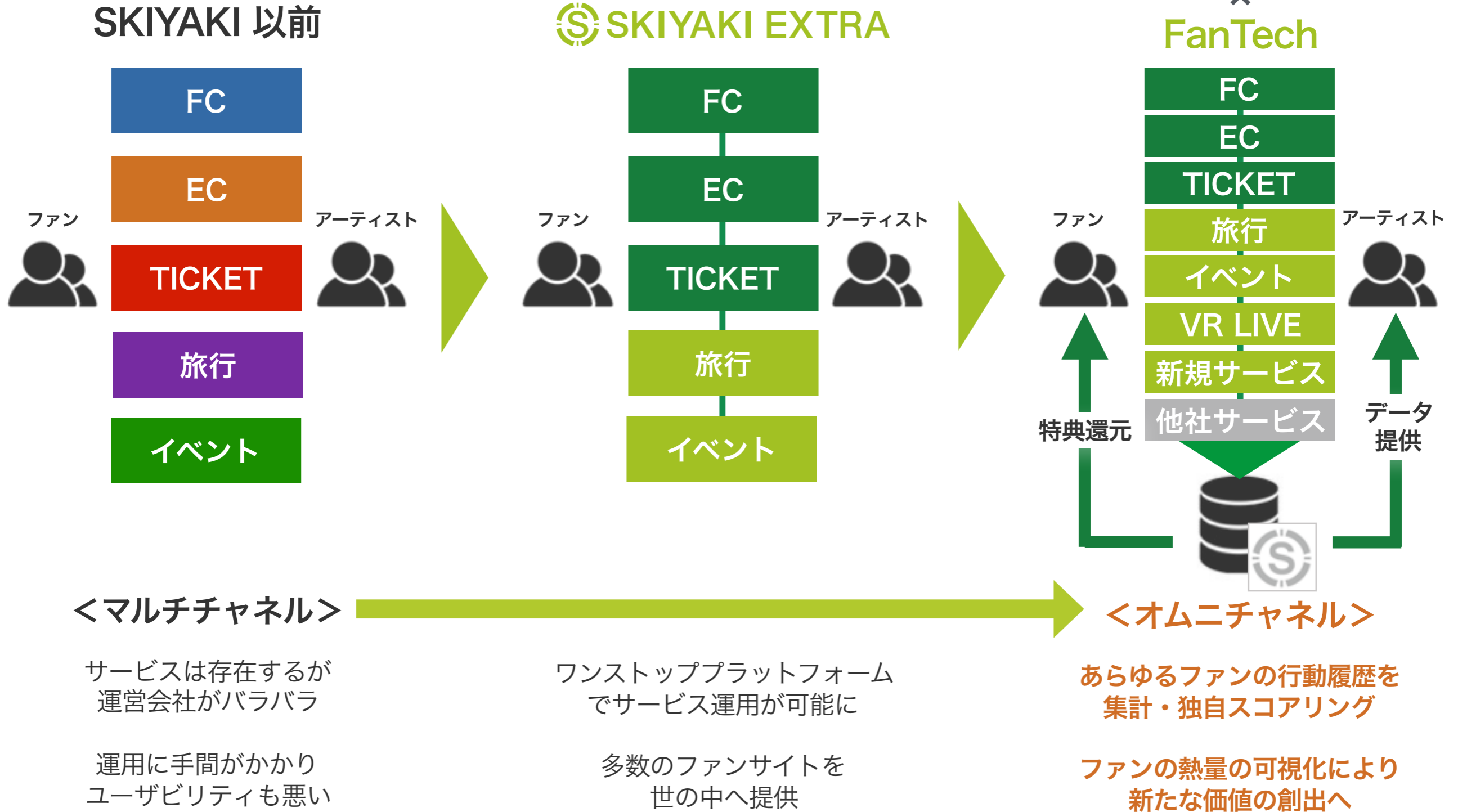
● Q1 ● Q2 ● Q3 ● Q4



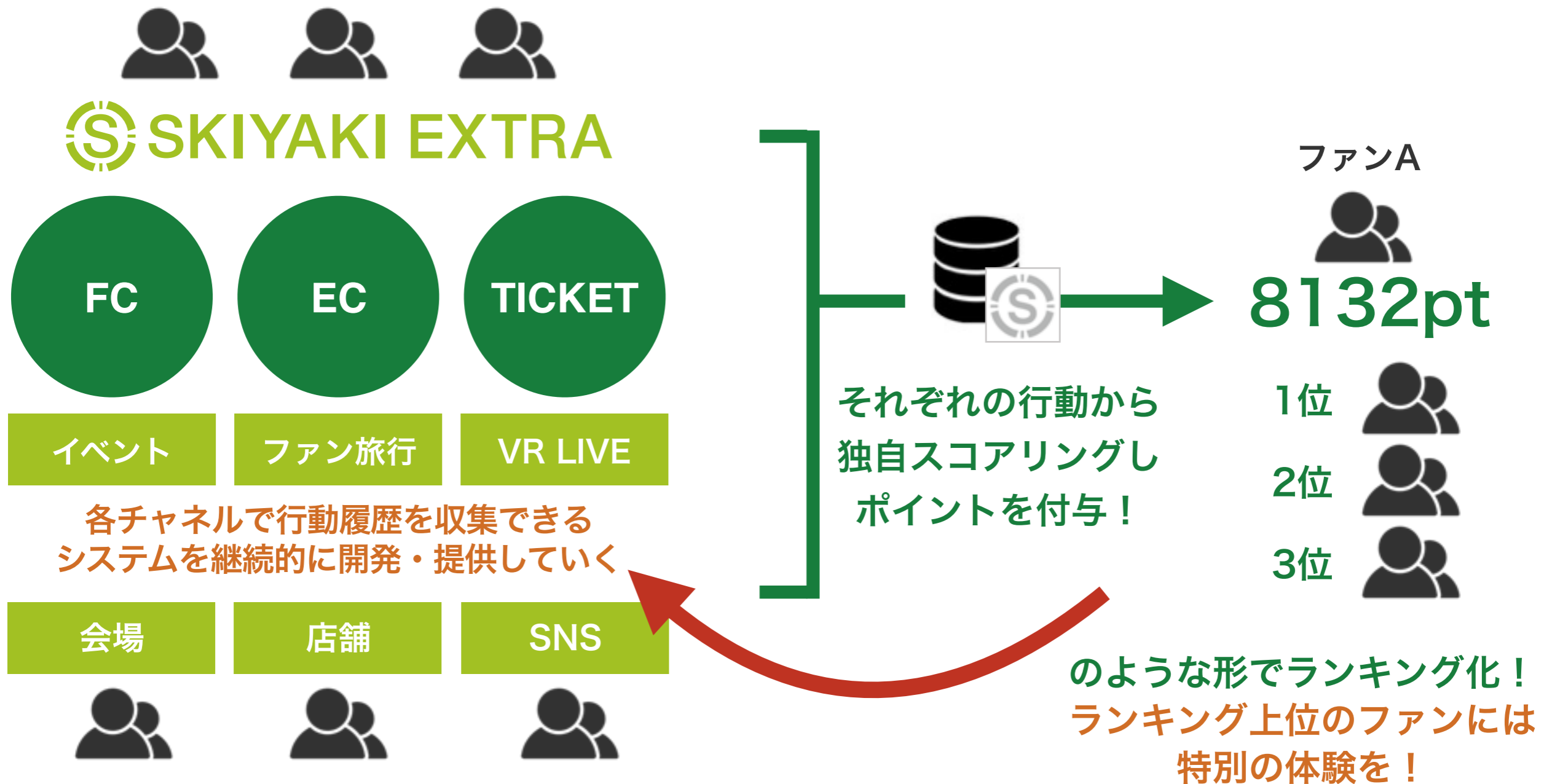
今後の展開

ファン行動の可視化による価値の創出

ファンサービスの発展・変遷



ファン行動の可視化による価値の創出



スコアリング・ランキングの導入により、
各種提供サービスでのファン行動が促進される！
結果、全体としての収益性が高まる。

例) 上位100名の
限定イベント招待など

当社グループは、事業ドメインであるFanTech領域において、主として以下の技術に係る研究開発活動、新規事業の創出に取り組んでおります。



エンタテインメント領域での ブロックチェーン技術の活用

(応用例)

可視化されたファンの熱量ポイントの
個人間やり取りなど



継続開発中



人工知能技術の自社サービス への応用、業務効率の改善

(応用例)

カスタマーサポートの自動化・効率化など



一部サービスでの試験的導入開始



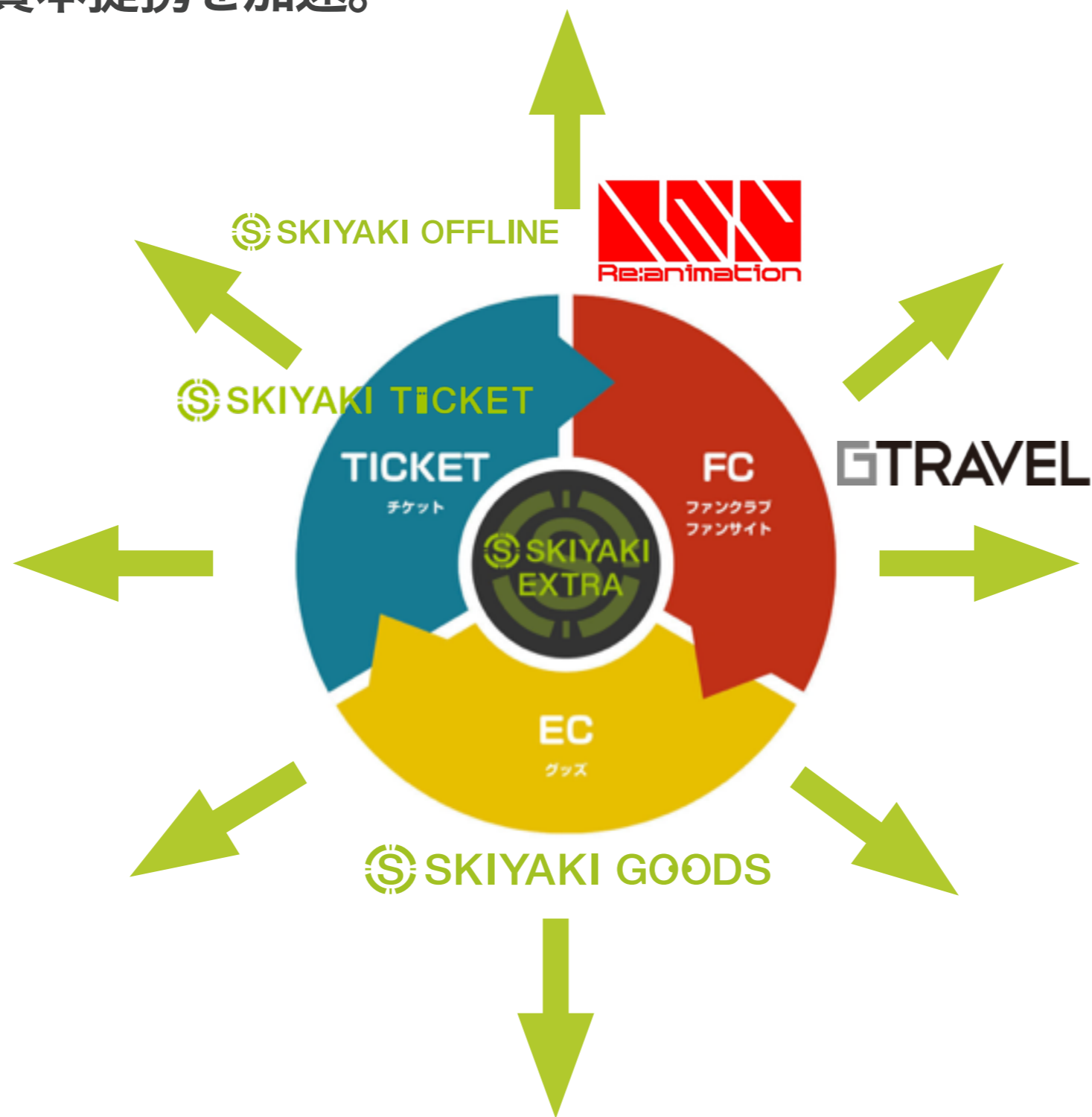
VR技術を利用した360°リアル タイムVR LIVE配信事業の創出



今期中に正式リリース

⑤ 資本提携の促進

当社プラットフォームのSKIYAKI EXTRAの価値を高め、事業シナジーが見込まれる企業との資本提携を加速。



- ・本資料には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本資料の記載と著しく異なる可能性があります。
- ・別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般的に認められている会計原則に従って表示されています。
- ・当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示原則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ・当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- ・なお、本資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。